

宅医療・介護連携推進事業の現状と課題など、町の地域支援事業のあり方を伺う。

高薄町長

在宅医療・介護連携推進事業は切れ目のない流れの中で構築し、問題を整理することが必要。食事や入浴、施設に一時宿泊しなければならぬ場合も検討し、さまざまな施設と連携して切れ目のない状態を作り上げたい。そのためには専門職員の体制強化が必要であり、当然経費がかかる。国には経費の面で地方における現状を訴えながら強く要望していく。

財政規律の
考え方



鈴木孝寿議員

未来を見据えた上で、次の点について伺う。

- ① 本町における財政規律の基本的な考え方
 - ② ニースに合わなくなった公共サービスの統廃合の考え方
 - ③ 高齢者福祉における今後の財政負担の見直し
 - ④ 補助金支出団体等の補助内容の見直し
 - ⑤ 各種利用料金の料金決定におけるプロセス
- 高薄町長
- ① 老朽化する公共施設の整備に町債（借金）の発行は避けられないので、将来に負担を残さないよう、公債費比率（収入に対する負債返済の割合）を常に管理していく。
 - ② 社会の変化や状況を的確に把握して、柔軟に対応する。
 - ③ 高齢者福祉に関わる財政負担は年々上昇傾向にあり、財源を確保しなければならぬので、国に財源措置を求める。
 - ④ 公共的な仕事をしている補助団体は人件費が大きく、なかなか見直せない。趣味の団体であって

介護保険の改正
に伴う要支援者
に向けた対応

鈴木孝寿 議員

介護保険法の改正に伴い、要支援1・2の対象者に対して町独自の考え方を反映できることになった。今後本町で行う方策、また、この動きに対する現在の進捗状況を含め次の点について伺う。

① 要支援該当者の介護保険利用状況

も町民を巻き込んだ活動をしていることから、時代の変化に対応できているかを調査して、見直せるところは見直していく。

⑤ 利用料金は基本的に3年ごとに見直している。各課から事情を聞いて政策調整会議に諮り、料金改正が必要となれば使用料審議会に諮る。社会の経済情勢も考慮して改正の有無を検討している。

② 未申請者の潜在
③ 予防の見地から考えた今後の運用

高薄町長

① 5月末現在、要支援該当者250人に対して介護保険利用者が143人であり、6割程度が利用されている。

② 検診会場等で聞き取り調査を行っており、来ていない方に対しては身近にいる方に確認している。

介護サービスが必要な方については、ケアマネジャーなどが訪問して聞き取り調査を行っており、毎年30人程度が調査対象となって介護サービスをj利用している。

③ 予防の部分も制度の改正において変更されており、以前に非該当となつた方にも介護サービスが提供ができると考えている。手続きの簡素化、地域の実情に合った利用方法を協議しており、利用者の足の確保も含め、切れ目のない形での予防事業を展開していく。

ペケレベツ川の水質及び
環境の改善



北村光明議員

これまでも複数の町民から、ペケレベツ川の水質改善について要望が出されている。

- ① 町民の要望に対してどのような対応と改善努力がされてきたか。
 - ② ペケレベツ川の水質と環境改善には何が必要か。
 - ③ 十勝の母なる川「十勝川」の上流にある町として、着色された水を流すことをどう考えるか。
 - ④ ペケレベツの意味は「明るく清らかな流れ」であり、そのイメージを取り戻すために、町と町民は全力をあげて取り組むべきと考えるがいかがか。
- 高薄町長
- ① 昨年3月定例会での答弁以降も引き続き事業所

旧羽帯小学校
校舎の再利用

北村光明 議員

旧羽帯小学校の解体を疑問視する声を聞く。

① 解体決定の前に校舎再

と改善に向けた協議を進めている。着色原因のイースト培養廃液を肥料等に有効利用する試験が昨年7月に約1か月間かけて行われており、結果はまだ出ていないが改善に向けた努力をされている。

② イーストを作る過程で糖蜜が濃くなることから、糖蜜を薄くする実験も行われており、実用化できれば今よりも川の色が改善できる可能性がある。

③ 川の色はむしろ無色の方が良い。改善に向けて努力しているので、今後さらに注視していく。

④ 事業所の歴史も踏まえながら、自然環境の向上と水質改善に向けて全力で取り組む。

利用の公募をしたか。

② 「老朽化で建物を放置するのは危険」と判断した根拠は。

③ 旧校舎を利用したいと考える町民が複数いる。予算は成立したが町民全体の資産として活用を考えないのか。解体を急がずとも、再利用を町民と模索する姿勢が必要でないか。

高薄町長

① 建物は建築から63年が経過しており、数回改修をしているが、耐震化規制物であることは間違いなく、利活用するためには家主として相当の改修費をかけなければならぬ。財政面から考えても費用対効果が薄いと判断し、公募は行わなかった。

② 耐用年数をはるかに超えており、傷みが激しくなってくる中で、剥がれた壁や屋根が強風で飛び可能性があることから危険と判断した。国道沿いであり、地域からも一刻も早く整地して、その



議会を傍聴しました
(6月16日清水町町内会連絡協議会)

コミュニティバスの運行とその利便性

北村光明 議員

「コミュニティバスが利用しづらい」との声がある。現状と課題についての認識を伺う。

① 運行回数の割には利用率が低いのは。

② 利用が少ない理由はどこにあるか。

③ 運行ルートの変更に関する制約はあるのか。

上で今後の用途を考えてほしい」と話があった。

③ 実際に利用の申し出があったのは1件であり、建物を見に行つて「使えない」と判断された。

④ 地方運輸局は現行の定期路線型から利用主体運用（デマンド）型への転換を勧めているが検討しないのか。

高薄町長

① 平成27年度は1日当たりの利用者が14・7人であり、平成25年度から減少傾向にある。原因は高齢者タクシー乗車券助成事業を開始したためだと思う。

② アンケートを実施した結果、乗りたい時間に乗れない、行きたいところまで行かないなど、サービス面での課題が多く、ダイヤがわかりづらい、便数が少ない、自宅から遠い、荷物を置くスペースがないなどの意見も出ている。

③ 厳しい制約はないが、国から補助を受けて運行しているので、運行事業者との打ち合わせや運輸局の改正許可がすべて必要である。

④ 利用者が極めて少ないところはデマンド方式が

清水町職員の
時間外労働などの
現状

北村光明 議員

町職員の時間外労働などの現状について伺う。

① ここ数年間の時間外労働の時間及び割増賃金の支払い状況を伺う。

② 事業所・部課単位での格差はあるか。

③ サービス残業や代休未消化の実態は把握できているか。

④ 健康面からみた課題として過労死やうつ病等がある。長時間労働者に対して健康診断を受けさせる労働時間の基準設定はあるのか。

高薄町長

① 平成27年度の実績は時間外勤務が9223時間で、時間外勤務手当支給額が2380万円であり、

合同納骨塚に
関する現状

北村光明 議員

少子高齢化社会や核家族化の進展に伴って先祖への住民の意識も変化し、経済的・精神的負担を考慮した「家族葬」や「共同墓」を望む声が高まっ

100年先を見据えた農業政策の確立を求める決議



桜井崇裕議員

地方版総合戦略の本格的な実行年度となり、産業の振興や人口の定着を目標とする取り組みが動き出した。農業を国民の共有財産として位置付け、農業者が増える政策の構